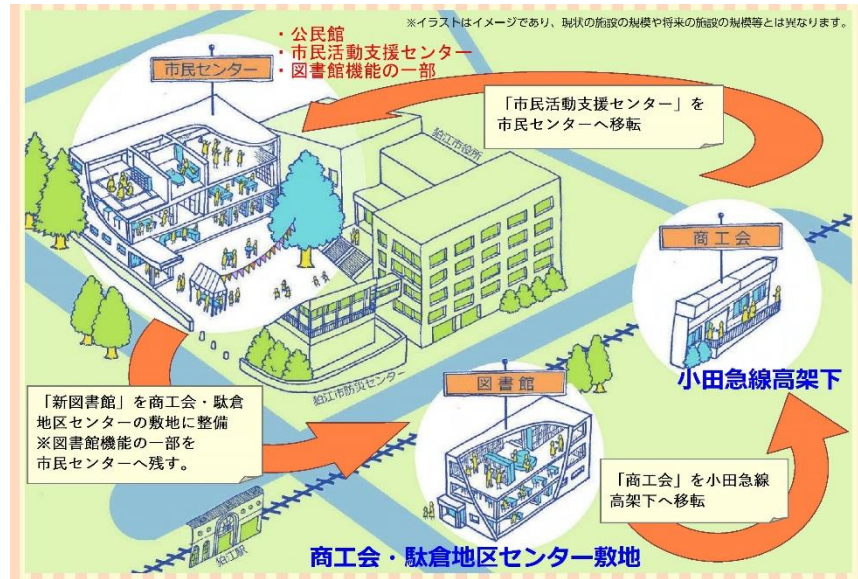


新図書館整備基本構想(骨子案) 1. 前提条件と市立図書館の課題

1-1. 新図書館検討の経緯

- 令和2年度に実施した市民アンケート調査結果も踏まえ、「狛江市民センター改修等基本方針」(令和2年8月策定)で方針決定
- 駄倉地区センター・商工会敷地に新図書館を整備し、改修後の市民センターには中央公民館・市民活動支援センターと併せて図書コーナーを設置予定



1-2. 狛江市及び市立図書館の概況

(1) 狛江市の概況と関連計画等

◎ 狛江市の概況

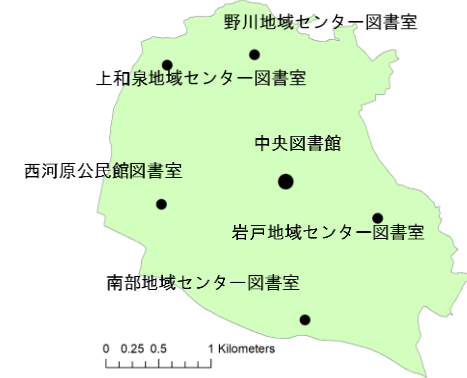
- 全国で2番目に小さい市で地形も平坦なことから、徒歩や自転車での移動が容易。ベッドタウンとして発展してきた一方、「水と緑のまち」として自然も豊か
- 人口は約8万3千人(令和3年4月時点)。現在も増加傾向にあるが将来的には減少し、高齢化も着実に進行する見込み
- 市内公共建築物床面積の半分を学校施設が占め、令和13年以降にそれらの更新時期を迎えると整備費が増大する見込み
- 音楽、絵手紙発祥、古墳や史跡のまち等の特色あり。多摩川の水辺や自然を活かした取組みも多く、多摩川は憩いの場としてだけでなく撮影の場としての活用も盛ん

◎ 関連計画等の内容

- 「狛江市第4次総合計画」(令和元年10月策定)の将来都市像は、「ともに創る文化はぐくむまち～水と緑の狛江～」。社会教育等分野では、「生涯を通じて学び、歴史が身近に感じられるまち」づくりを推進
- 「第3期狛江市教育振興基本計画(狛江市教育大綱)」(令和2年3月策定)では、生涯を通じた学びの実現に向け、図書館の利便性・利用率向上を図ることや、図書資料の充実・機能強化に向けた検討を行うことを掲げる。併せて、学校図書館との積極的な連携も推進
- 「狛江市公共施設等総合管理計画(改訂版)」(令和4年度改定予定)では、人口減少や人口構成の変化に伴う市民ニーズに応じた施設整備を検討することや、公共施設総量の適正化を図ることを示す

(2) 市立図書館の概況

- 中央図書館・5図書室でサービスを展開しており、市内のいずれの地域からもアクセス容易なサービス網を構築
- 昭和52年開館の中央図書館では老朽化が進行。閲覧・学習・資料保存等のためのスペースが不足しており、一部資料は外部書庫(市役所本庁舎書庫)に保管
- 市立図書館全体で親子連れやグループでの利用、交流・滞在・市民活動目的での利用、対面朗読等に対応するための環境が不十分
- 市全体の蔵書冊数は約30万冊でほぼ横ばいで推移。うち約17万冊が中央図書館の蔵書で、地域センター等図書室の蔵書は40%強が児童書。近年は受入冊数とほぼ同数を除籍しているほか、所在不明の資料も多い(約1,000点/年)
- 公衆無線LANやタブレット・電子書籍などのICTを活用したサービスや、利用対象別のサービスも展開している一方、市民・地域の課題解決を目指したサービスには未着手
- 市民の登録率は約26%で、23～30歳や51歳以上で登録率が低い
- 貸出は全体の約60%以上が中央図書館。児童書の貸出が全体の40%を占め増加傾向。地域センター等図書室では貸出冊数の半分以上が児童書。電子書籍は働き盛り世代の利用が多い。他自治体との相互貸借については、借受冊数が貸出冊数を大きく上回る
- 貸出利用者数・冊数と比較して予約件数は増加傾向。レファレンス件数は、平成29年以降減少傾向
- 中央図書館は毎週火曜日が休館。資料の修理や館内の整理、おはなし会事業、布絵本の提供、利用支援サービス等でボランティアと協働。各施設で異なる主体が運営や選書を行うことで独自色が存在



市内図書館・図書室位置図



中央図書館入口

1-4. 望ましい基準及び他自治体水準

- 人口1人当たりの蔵書冊数・延床面積・貸出数は、望ましい基準目標基準例や他自治体(人口同規模市・多摩地域)の水準以下。予約件数は目標基準例・人口同規模市平均を上回る

人口同規模市との水準の比較

	人口(人)	市域(km ²)	人口1人当たり			
			蔵書冊数(冊)	延床面積(m ²)	貸出数(冊)	予約件数(件)
狛江市	83,218	6.4	3.60	0.02	5.10	1.39
人口同規模(8~10万人)66市平均	88,757	295.6	3.93	0.04	5.56	0.48

※狛江市を除く値は「日本の図書館2020」より

1-3. 図書館等最新事例

● 育児コンシェルジュの配置

- 親子の図書館利用を支援するほか、子育て関連資料も紹介



● ボードゲームやそのプレイ環境の提供

- 館内(図書館・ロビー)もしくは館外で利用可能なゲームを貸出



画像出典: 大津町立おおづ図書館 HP

● 楽器の貸出

- 自宅に楽器のない利用者向けに貸出



画像出典: パンクバー公共図書館 HP

● 予約本自動受取機による資料提供

- 駅ビル内に設置した受取機を通じて、7:00~22:00の間で予約本を提供



● 自然との触れ合いの場の提供

- 地域の四季を感じられる音と香りのエリアや、自然と身近に触れられるビオトープを設置

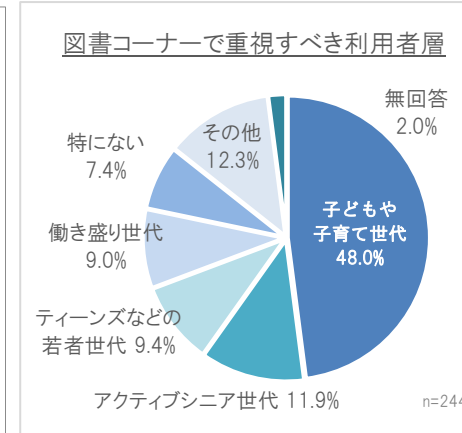
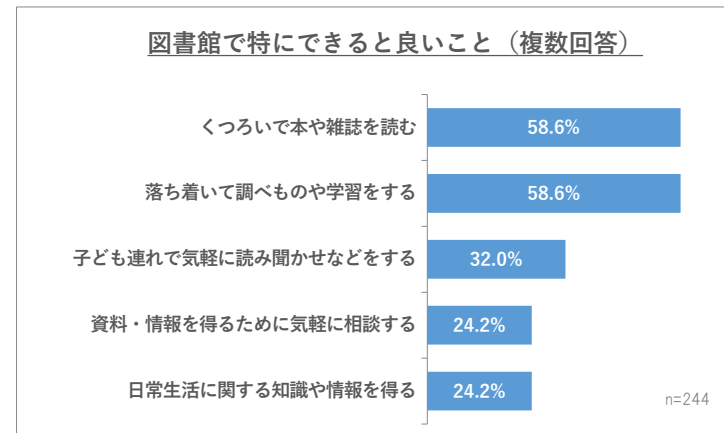


画像出典: 大阪府立中央図書館 HP

1-4. 市民ニーズ

(1)市民 Web アンケート(244 票回収)

- 図書館で特にできると良い使い方として、半数以上が「くつろいで本や雑誌を読む」「落ち着いて調べものや学習をする」を選択
- 以降は「子ども連れで気軽に読みかせなどを」(32.0%)が続き、「資料・情報を得るために気軽に相談する」、「日常生活に関する知識や情報を得る」も約 25%が選択
- 改修後の市民センターの図書コーナーで重視すべき利用者層としては、「子どもや子育て世代」(48.0%)が最多



市民 Web アンケート結果

(2)市民ワークショップ(全6回)・小中高生ワークショップ ※第4回まで開催済

ワークショップ概要

回	テーマ・意見の一部(※詳細は市 HP に掲載)	
第1回	良いところ	立地、アクセス、充実した児童サービス、職員による丁寧な対応 等
	改善したいところ	蔵書の少なさ、面積の狭さ、子ども連れでの利用のしづらさ、イベントの少なさ 等
第2回	今後のサービスや利用者層の方向性を考えよう!	
	重視すべきサービス等	充実した蔵書・スペース、レファレンスサービス、交流の場としてのサービス、ICT化に対応したサービス(セルフ化・オンライン化) 等
第3回	図書館・図書室それぞれの役割を考えよう!	
	新図書館	専門資料や郷土資料を含む各種資料の提供、イベント開催、地域のサロン、自習室・コワーキングスペース 等
第4回	新しい市民センター図書コーナーの機能・配置・面積を考えよう! ※市民センターワークショップと合同	
	子ども向け、賑わい・滞在型、ブックカフェ、狛江がわかる、電子書籍のみ、市民センターと一体化 等	
第5回	新図書館のサービスと必要な空間等を考えよう!	
	※作成予定	
第6回	新図書館基本構想(案)について	
	※作成予定	
小中高生ワークショップ	みんなの思いがく市民センターと新図書館を考える小中高生ワークショップ 静かにしなくて良い、自由に使える、本の魅力に触れられる、おすすめ本紹介等に関わることができる 等	



各ワークショップの様子

(3)関係団体等ヒアリング (個人・団体ボランティア/利用支援サービス協力員/福祉関連団体)

- 活動スペースや学習等に利用可能なフリースペース、飲食スペース、対面朗読室・音訳室等の設置やバリアフリー対応等を望む意見が多いほか、利用支援サービスの充実や、活動内容の周知、交流支援等を望む意見も存在

1-5. 敷地条件

- 新図書館計画地は、現駄倉地区センター・商工会敷地。整備可能な面積は約 1,100 ㎡

敷地条件

所在地	東和泉1丁目 1937-1、1937-3 (狛江市駄倉地区センター・商工会敷地)
地域地区	近隣商業地域・第一種中高層住居専用地域 第二種高度地区/準防火地域
敷地面積	580 ㎡
建ぺい率	80%(近隣商業地域)、60%(第一種中高層住居専用地域)
容積率	200%
日影規制	高さが10mを超える建築物 4-2.5h、H4m(近隣商業地域) 高さが10mを超える建築物 3-2h、H4m(第一種中高層住居専用地域)



位置図

1-6. 市立図書館が抱える課題

- ① 幅広い利用や魅力あるまちづくりへつながるサービスの充実
 - 幅広い市民のニーズに対応することで積極的かつ継続的な利用につながるサービスの展開や、「狛江市らしい」「狛江市ならではの」魅力や文化の創出・継承への貢献
- ② 市民ニーズと将来展望双方を踏まえた適切な蔵書の実現
 - 他市水準や将来人口、市民ニーズ、書籍の出版状況、新たに整備可能な施設の面積等を踏まえた狛江市として望ましい蔵書の規模や構成、適切な所蔵方法の実現
- ③ 新図書館規模等を踏まえたより効果的な機能配置
 - 新図書館や新市民センター図書コーナー、地域センター図書室等の限られた資源の有効活用につながるネットワークの実現
- ④ 市民や地域との協働、他機関との連携の実現
 - これまでの取り組みも活かしたより一層の市民・地域との協働の推進や、サービスの充実に向けた市内他機関とのさらなる連携

2-1. 新図書館を含む市立図書館全体のあり方

(1) 市立図書館が目指す方向性

市立図書館が今後目指す方向性

市民の学びや暮らしを彩り、狛江の実りを未来へつなぐ

- 市内全域で子どもから高齢者まであらゆる市民に必要な学びの場や機会を提供
- 市民同士のつながりや多彩な知・文化の拠点となり、まちの課題の発見・解決や持続的な発展にも貢献
- 新中央図書館を核とし、電子図書館を含むサービス網全体でサービスや資料、施設等を充実

◎ サービス

- 身近で役立つ図書館として、レファレンス等の既存サービスやハイブリッドサービス等を充実
- 市の特色も踏まえて子どもや働き盛り世代向けのサービスを積極的に展開するほか、アート関連サービスや歴史の発信、市民協働等も重点的に進め、図書館や本を通じたまちとの出会いも促進

◎ 資料

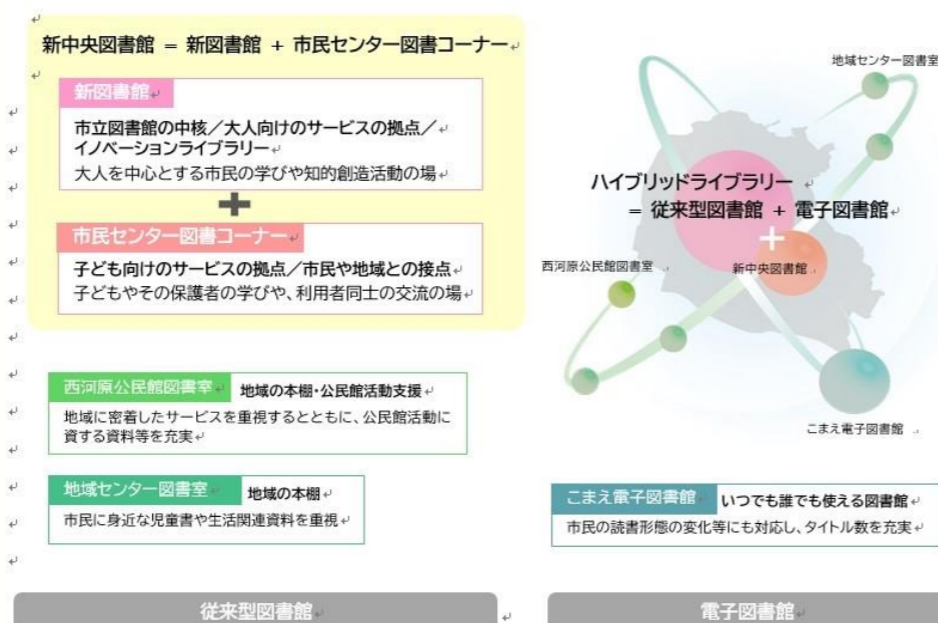
- サービス網全体で蔵書冊数 33 万冊（人口同規模市人口当たり蔵書冊数×狛江市人口（3.93 冊/人×83,218 人））以上を目指す。新図書館及び市民センター図書コーナーで合計 20 万冊以上、地域センター等図書室で現状ままの約 12.6 万冊を想定
- 新図書館と市民センター図書コーナーの蔵書は重複させず、電子書籍も活用してタイトル数を充実

◎ 機能配置

- 中央図書館機能の強化を図るため、400m程度の距離となる予定の新図書館と市民センター図書コーナーの2施設で新中央図書館を構成し、それぞれの規模や立地を踏まえて機能やサービスを分担
- 5 図書室では新中央図書館との連携をさらに強化するほか、西河原公民館図書室では公民館活動関連の資料・情報の提供機能を強化。新中央図書館・5 図書室・電子図書館が一体的にサービス網を構築

(2) 各図書館・図書室等のあり方

- 新中央図書館では、主に新図書館が大人向けのサービス、市民センター図書コーナーが子ども向けのサービスを担う
- 新中央図書館と、地域の本棚としての西河原公民館図書室・地域センター図書室が従来型図書館としての資料・サービスを提供
- 従来型図書館と、いつでも誰でも利用可能な電子図書館が一体となり、ハイブリッドライブラリーとして未来へつながる資料・サービスを提供



2-2. 新中央図書館の具体的なあり方 ※作成予定

(1) コンセプト

(2) 蔵書規模目標

(3) サービス計画

(4) 施設計画